

2017年度 福島第一原子力発電所 人身災害発生状況

2017年10月12日



東京電力ホールディングス株式会社

1. 2017年度の安全活動（3本の柱）

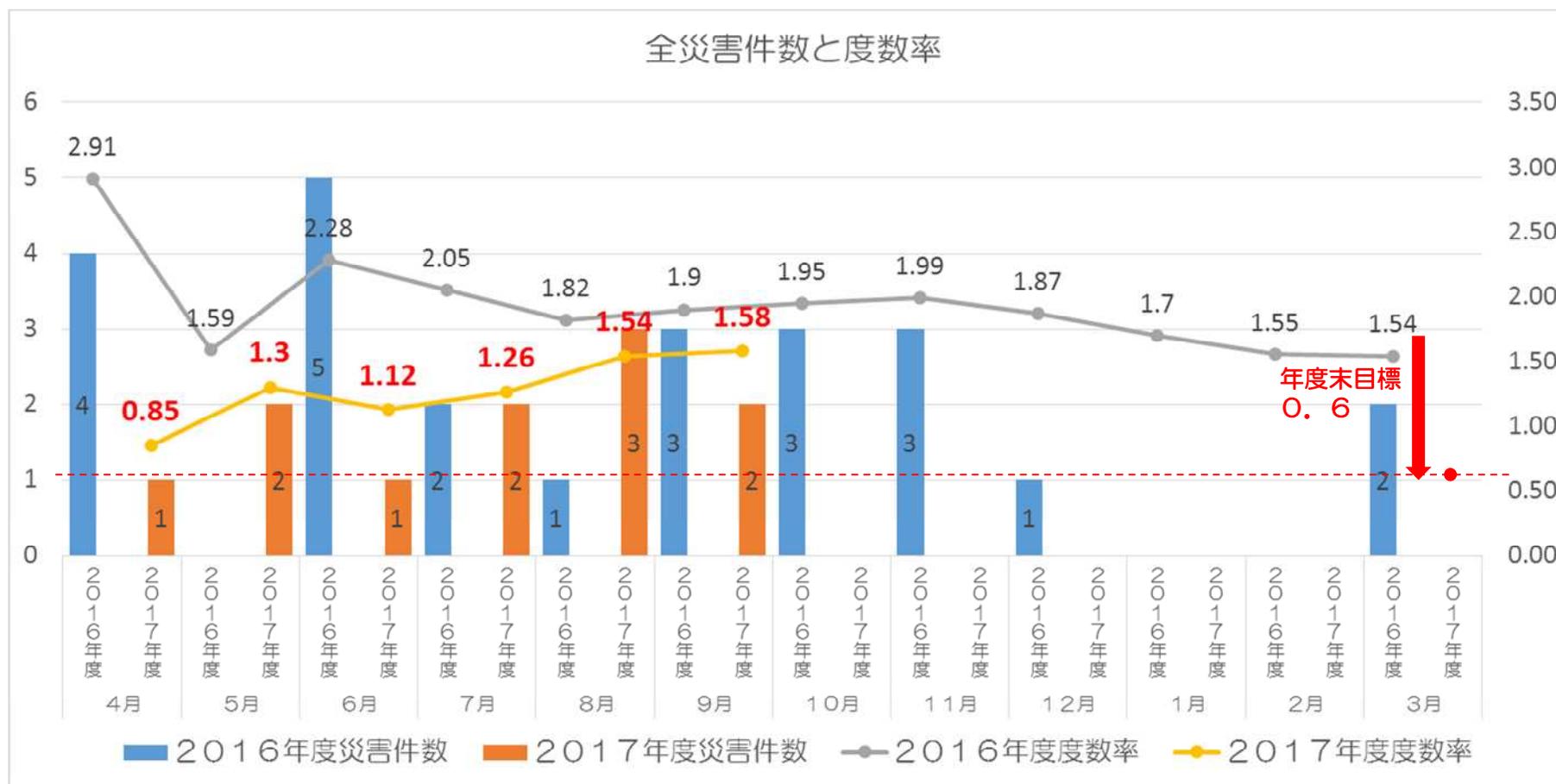


3本の柱	項目	アクションプラン	実績
意識	安全イベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> 安全標語の募集・掲示 安全ポスターの募集・掲示 危険箇所抽出キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> 4月から安全標語の募集・掲示 危険箇所抽出キャンペーンにて危険箇所の抽出・是正を実施（1,110件の是正）
スキルアップ	当社監理員への安全コーチング（作業員教育は元請け企業安全診断等で確認）	<ul style="list-style-type: none"> 監理員の力量向上に寄与する安全コーチング 	<ul style="list-style-type: none"> 監理員の力量評価を実施し、30%の力量向上を目標に安全コーチングを毎月実施し、半期毎に評価を実施
管理	現場パトロール等による危険箇所の撲滅	<ul style="list-style-type: none"> 安推協パトロール 協力企業との合同パトロール エリアキーパーパトロール 	各パトロールを通じ、危険箇所の是正を推進（1,248件の指摘に対し1,175件（94.2%）の是正実施）
	安全観察による不安安全行為等の撲滅	<ul style="list-style-type: none"> 特別管理職による期待事項を活用した安全観察の実施 	業務に携わる者が心得るべき基本事項を各部で期待事項として掲げ、現場作業等での行動を評価・是正
	企業安全診断後の改善状況の検証	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング 現場観察による元請企業安全活動（作業員教育含む）の良好事例 指摘事項の共有と改善 	下記企業の安全診断を実施し、良好事例の水平展開、指摘事項の改善を推進。 （株）東芝、大成建設（株）、鹿島建設（株）、日立GE、（株）宇徳、前田建設（株）
	安全会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> 1F共通事項に対する検討会、報告会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 5月：班長の人財育成 7月：熱中症の撲滅 9月：1F経験の浅い作業員の災害防止

2. 災害発生状況（1／6）

TEPCO

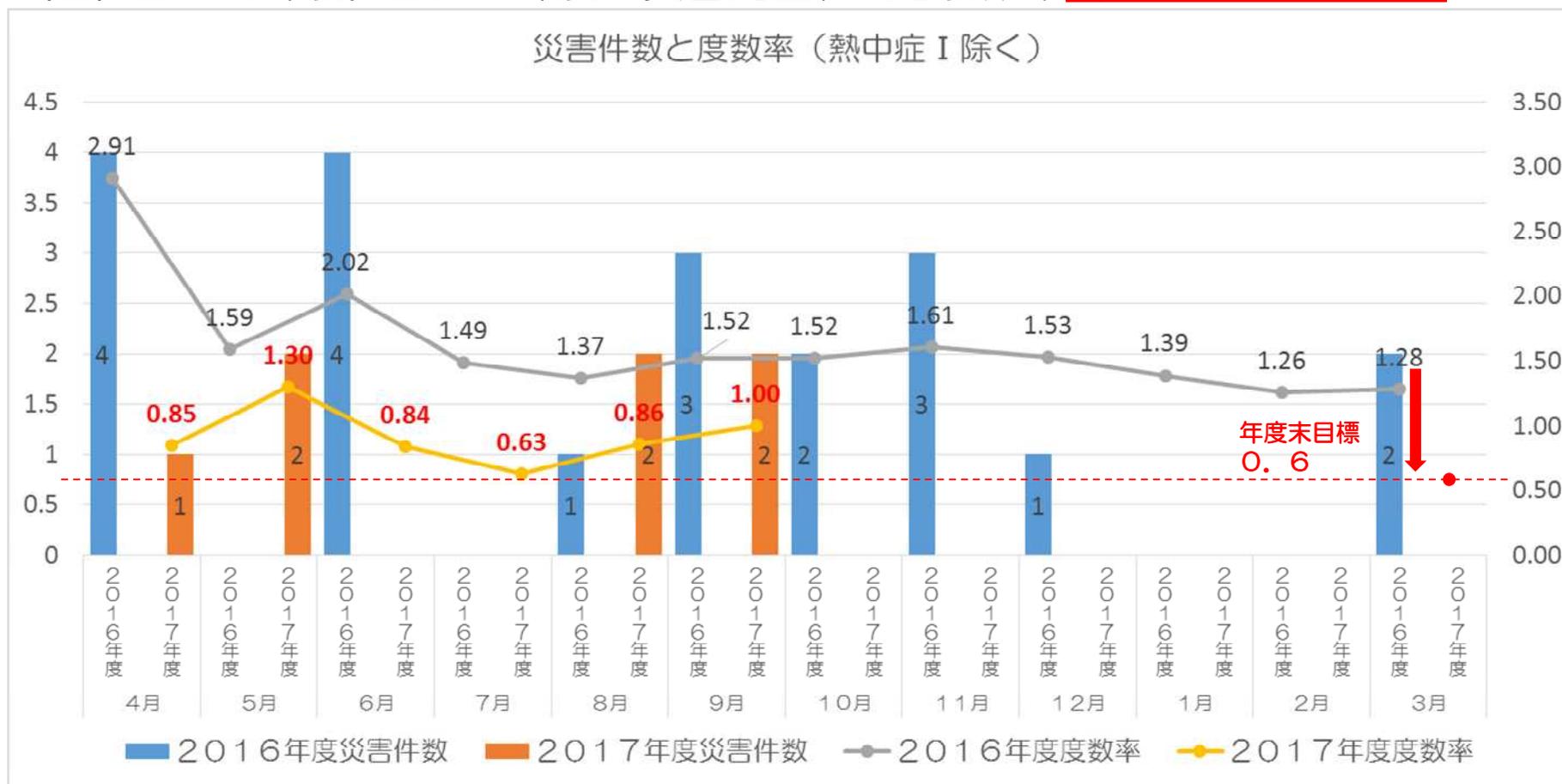
(1) 2016年度, 2017年度 全災害発生状況と度数率 (熱中症を含む)



・2017年9月末度数率は「1.58」（2016年9月末は「1.9」）

2. 災害発生状況（2/6）

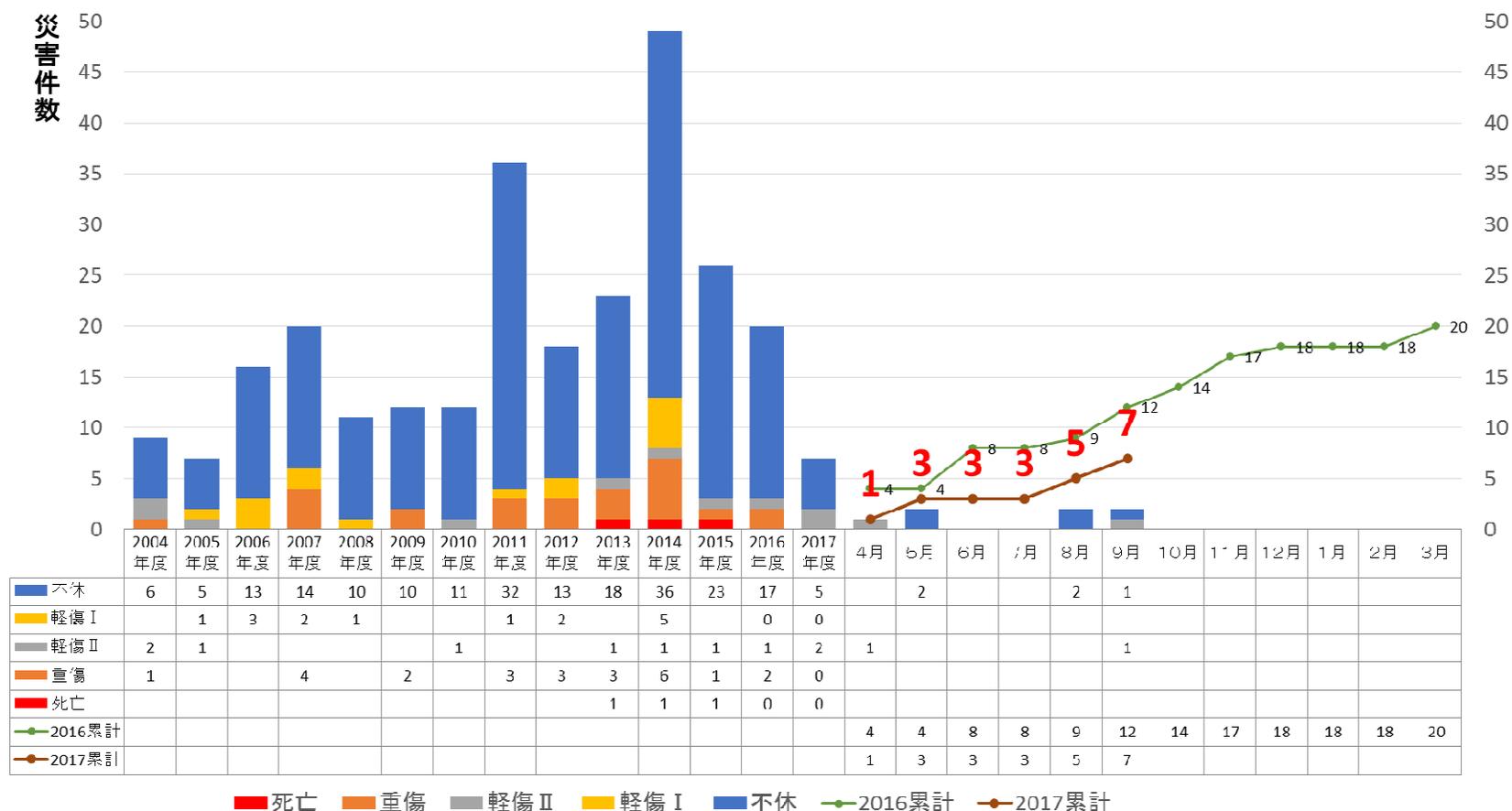
(2) 2016年度, 2017年度 災害発生状況と度数率（熱中症 I を除く）



• 2017年9月末度数率は「1.00」（2016年9月末は「1.52」）

2. 災害発生状況（3／6）

（3）災害発生状況推移（熱中症Ⅰを除く）



- 2017年9月末時点で7件発生
（「転倒・躓き」2件、「切れ・擦れ」、「熱中症Ⅱ」各1件、その他3件）

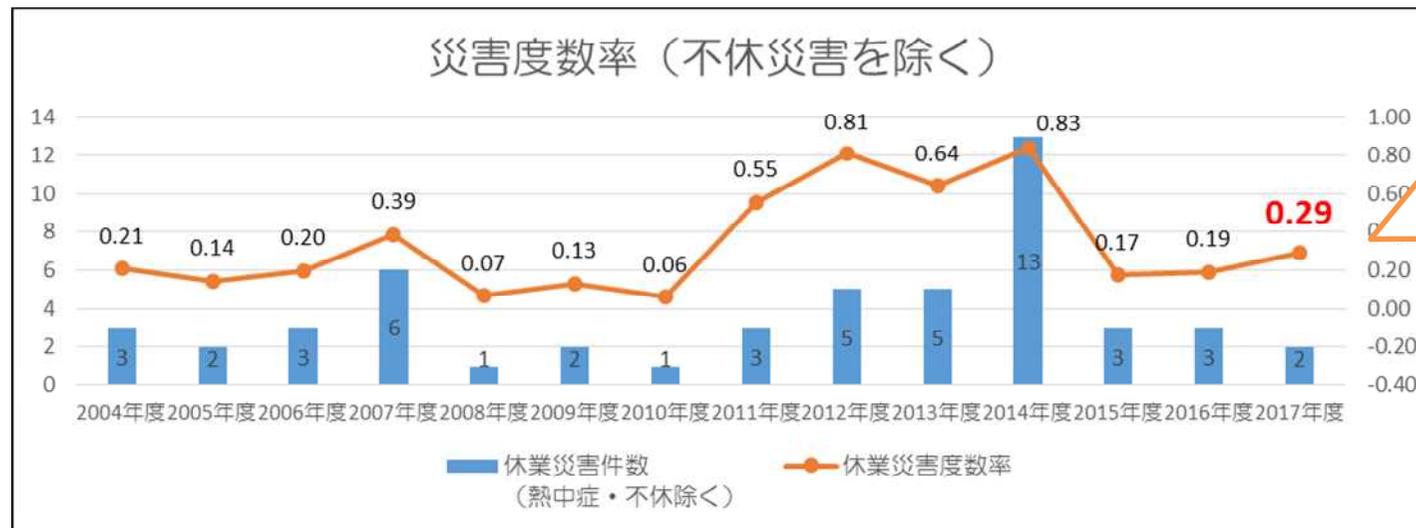
2. 災害発生状況（4／6）

TEPCO

（4）災害度数率推移（熱中症Ⅰを除く，不休災害を除く）



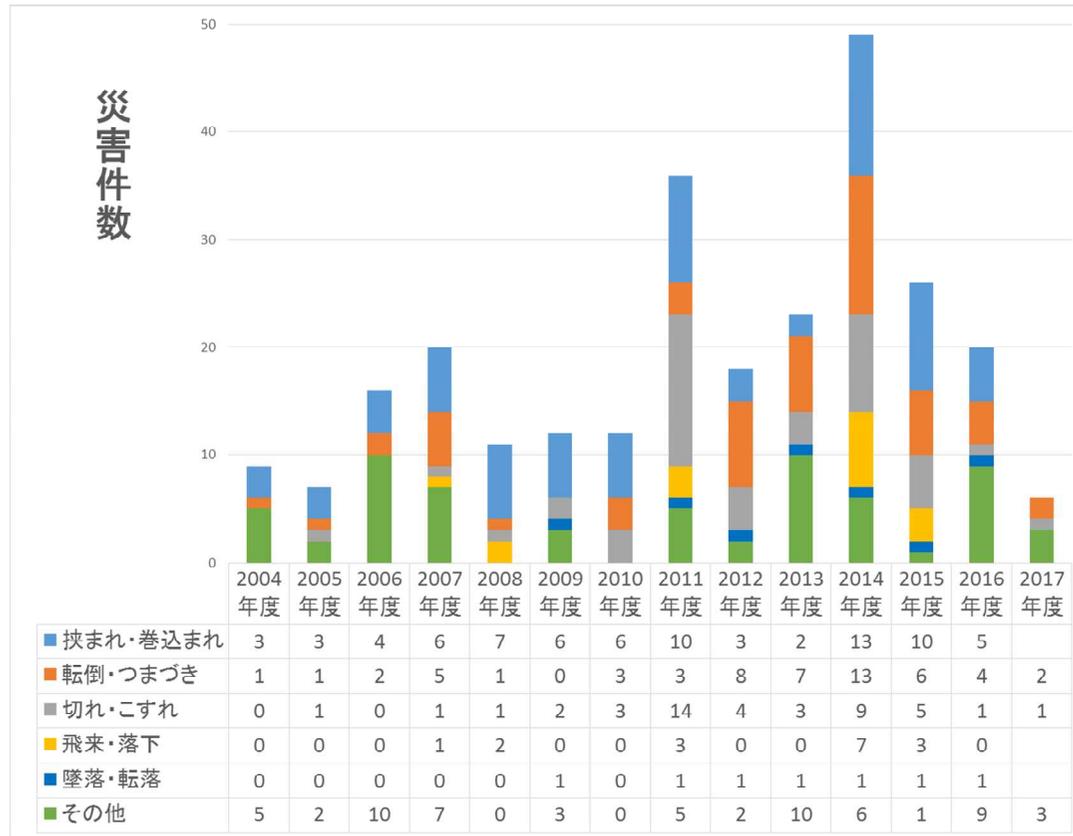
熱中症Ⅰを除くと9月末累計災害件数は12件 → 7件と2016年度から減少



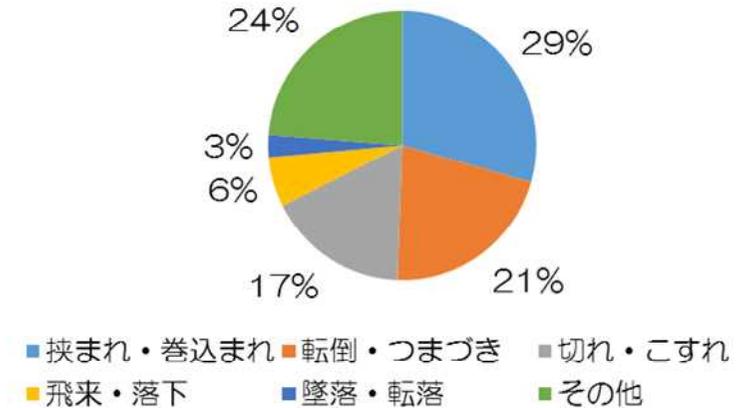
休業災害は4月と9月に軽傷Ⅱが1件発生（2016年度は年間で3件発生）

2. 災害発生状況（5／6）

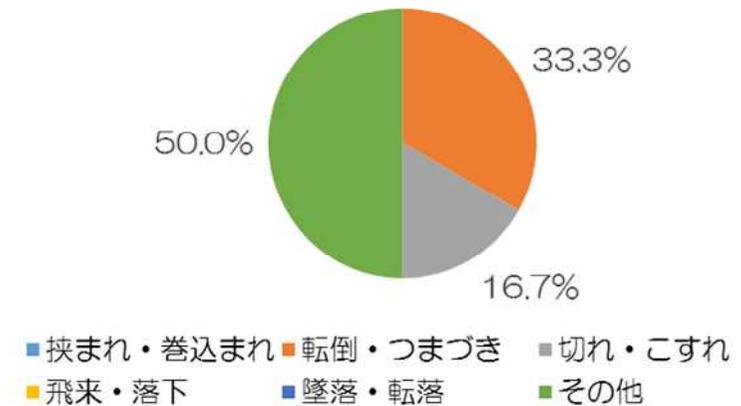
（5）災害の「型別」発生状況推移（熱中症を除く）



災害の「型別」発生割合（2004年度以降）



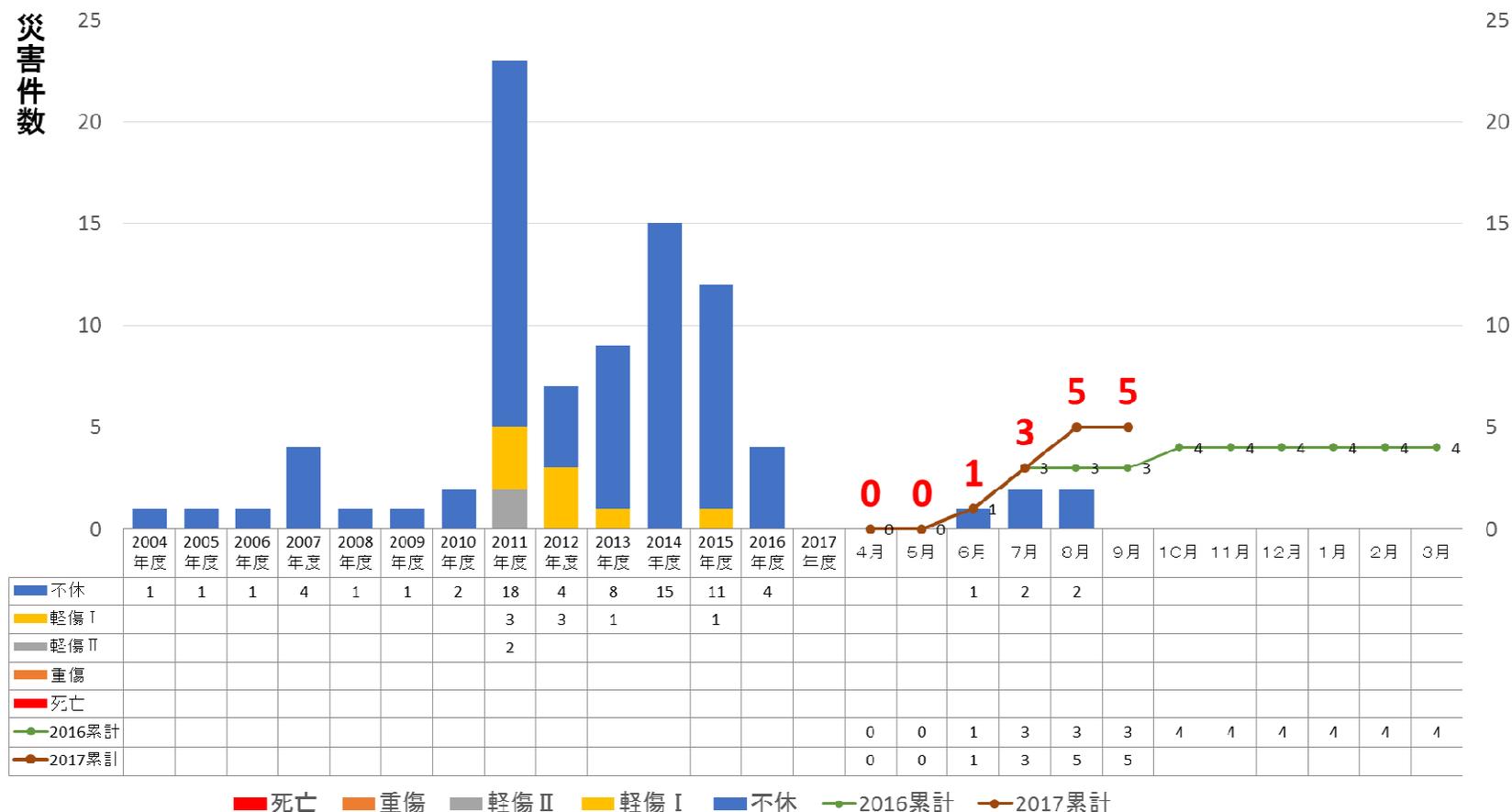
災害の「型別」発生割合（2017年度）



- 2017年9月末時点で6件発生
発生割合の高い「転倒・つまづき」が2件、「切れ・こすれ」が1件発生

2. 災害発生状況（6／6）

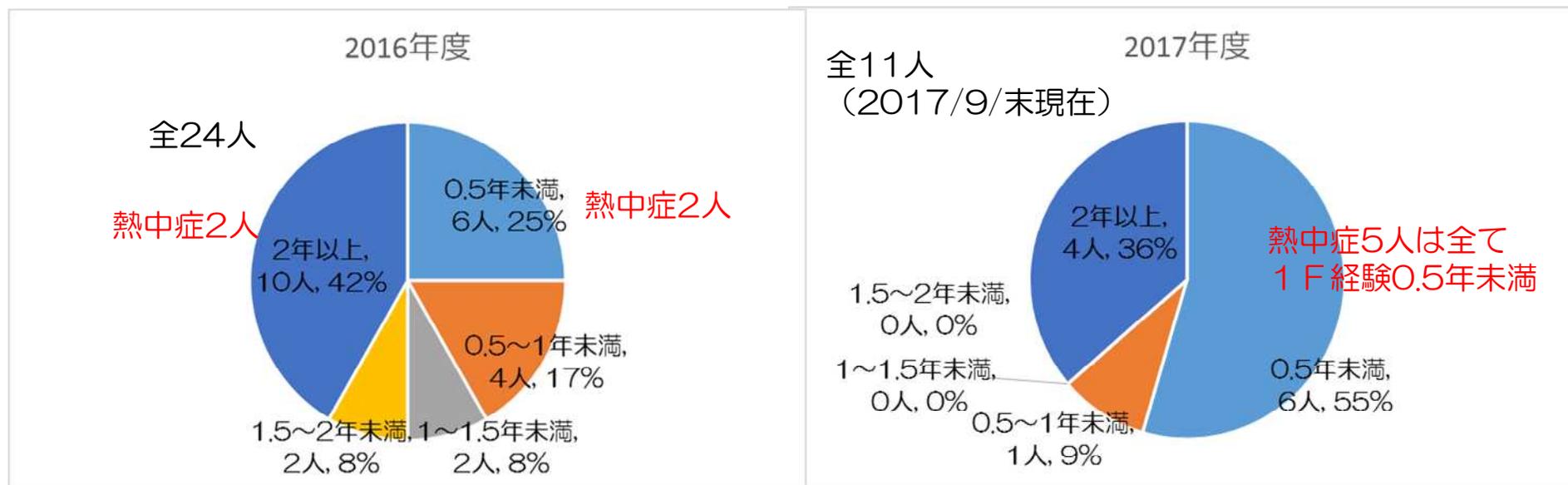
（4）熱中症災害の発生状況推移



・2017年度は9月末時点で5件（1件は熱中症Ⅱ度）、2016年度を1件上回る

参考：新規入場者の災害率（2016年度、2017年度の比較）TEPCO

全災害（被害災害を除く）における1F経験年数別の比率



2017年度の災害は、1F経験0.5年未満の人の割合が55%と高く、9月の時点で2016年度1年間の人数と同数（6人）となった。また、熱中症発症の5人は全員1F経験0.5年未満。

○当社、協力企業が集まった安全会議にて「1F経験の浅い作業員の災害防止」について議論

- ・放射線環境下での防護装備を装着した慣れない作業
- ・慣れない環境下での緊張
- ・入所時教育は机上だけではなく、現場でのOJTが必要

等の要因を踏まえ、1F経験の浅い作業員の災害防止策として当社・協力企業で統一した安全宣言を実施し、取り組みを開始。

【安全宣言】

「目配り気配り心配りで、チームで1F経験の浅い作業員をケアする」

3. 災害一覧（1 / 3）



No.	発生			場所	種類	傷害程度	件名	年齢	震災後1F経験(年)	作業状況
	年	月	日							
1	2017	4	19	H1東エリア南側	転倒・つまずき	軽傷Ⅱ	トラック荷台上での資材荷下ろし作業中における股間の打撲	46	3.33	本作業中
2	2017	5	18	土捨て場	切れ・こすれ	不休	廃棄水中ポンプ分別作業中に左膝を切創	42	2.5	本作業中
3	2017	5	31	H2エリア	その他	不休	H2エリアタンク設置工事における左眼瞼挫創	63	0.42	片付作業中
4	2017	6	28	雑固体廃棄物焼却設備建屋2F	熱中症Ⅰ度	不休	雑固体廃棄物焼却設備修理工事作業中の体調不良	39	0.08	本作業中
5	2017	7	12	1号機タービン建屋屋上	熱中症Ⅰ度	不休	1号機原子炉建屋カバー解体工事監視カメラ移設作業中における体調不良	22	0.08	本作業中

3. 災害一覧 (2 / 3)



No.	発生			場所	種類	傷害程度	件名	年齢	震災後1F経験(年)	作業状況
	年	月	日							
6	2017	7	14	G6エリアタンク付近	熱中症Ⅰ度	不休	G6フランジタンク残水処理業務委託体調不良者発生	23	0.33	本作業中
7	2017	8	7	増設多核種除去設備工リア	熱中症Ⅰ度	不休	多核種除去設備運転・保守管理業務における体調不良者の発生	38	0.08	作業後発症
8	2017	8	23	中央交差点北側駐車場	その他	不休	廃車車両の駐車状況確認中における負傷者の発生	45	6.5	本作業中
9	2017	8	29	固体廃棄物貯蔵庫第9棟	熱中症Ⅱ度	不休	固体廃棄物貯蔵庫第9棟新設工事体調不良者発生	50	0.03	本作業中
10	2017	9	1	固体廃棄物貯蔵庫第9棟	転倒・つまずき	軽傷Ⅱ	固体廃棄物貯蔵庫第9棟新設工事1m落下、右足かかと部負傷	59	0.5	片付作業中

3. 災害一覧（3／3）



No.	発生			場所	種類	傷害程度	件名	年齢	震災後1F経験(年)	作業状況
	年	月	日							
11	2017	9	21	土捨場南側（陳場沢川）付近	その他	不休	侵入検知設備の取替え作業中における負傷者（右手小指刺創）の発生	43	2.75	本作業中

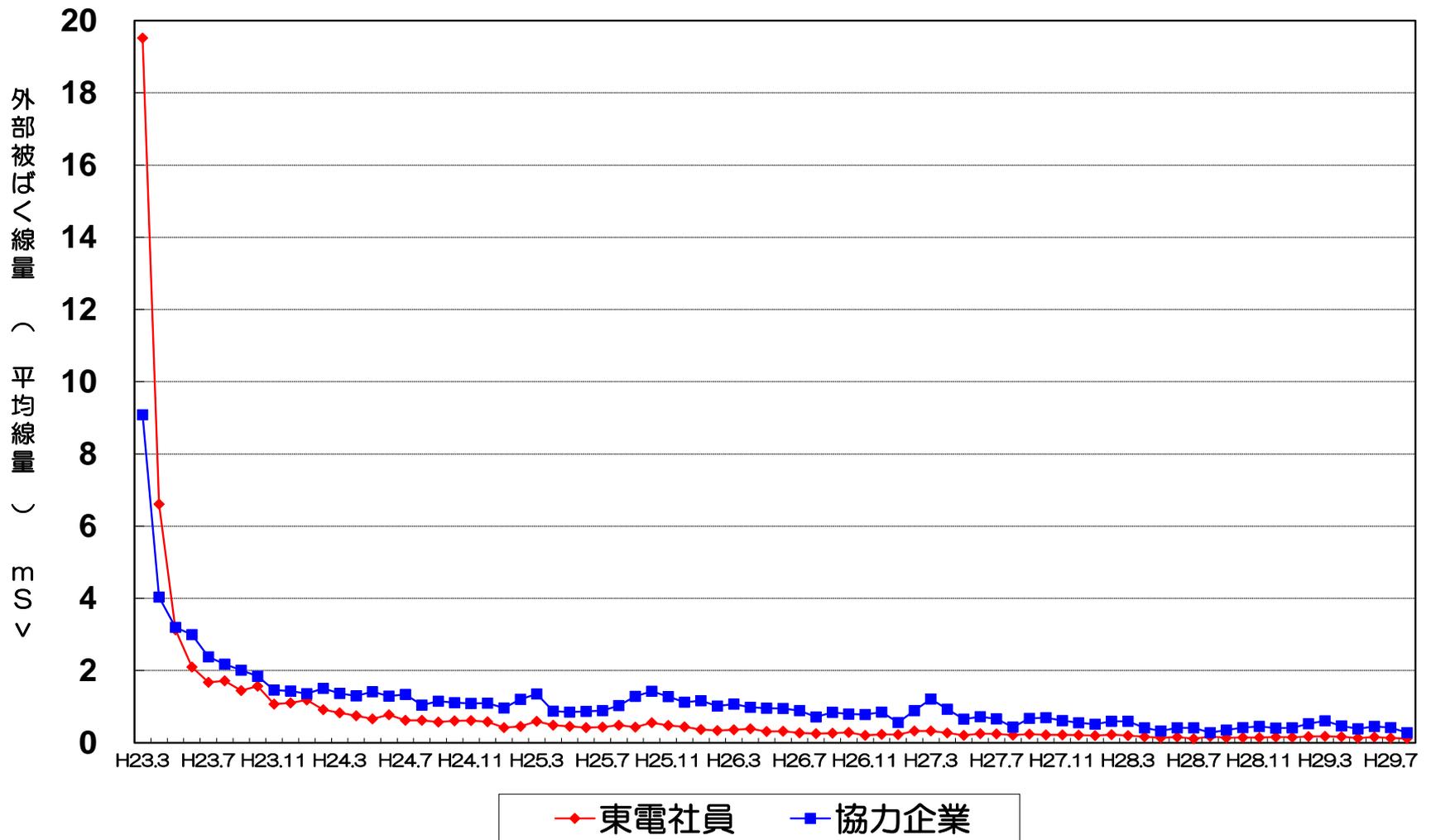
以上

福島第一原子力発電所従事者の被ばく線量の全体概況について

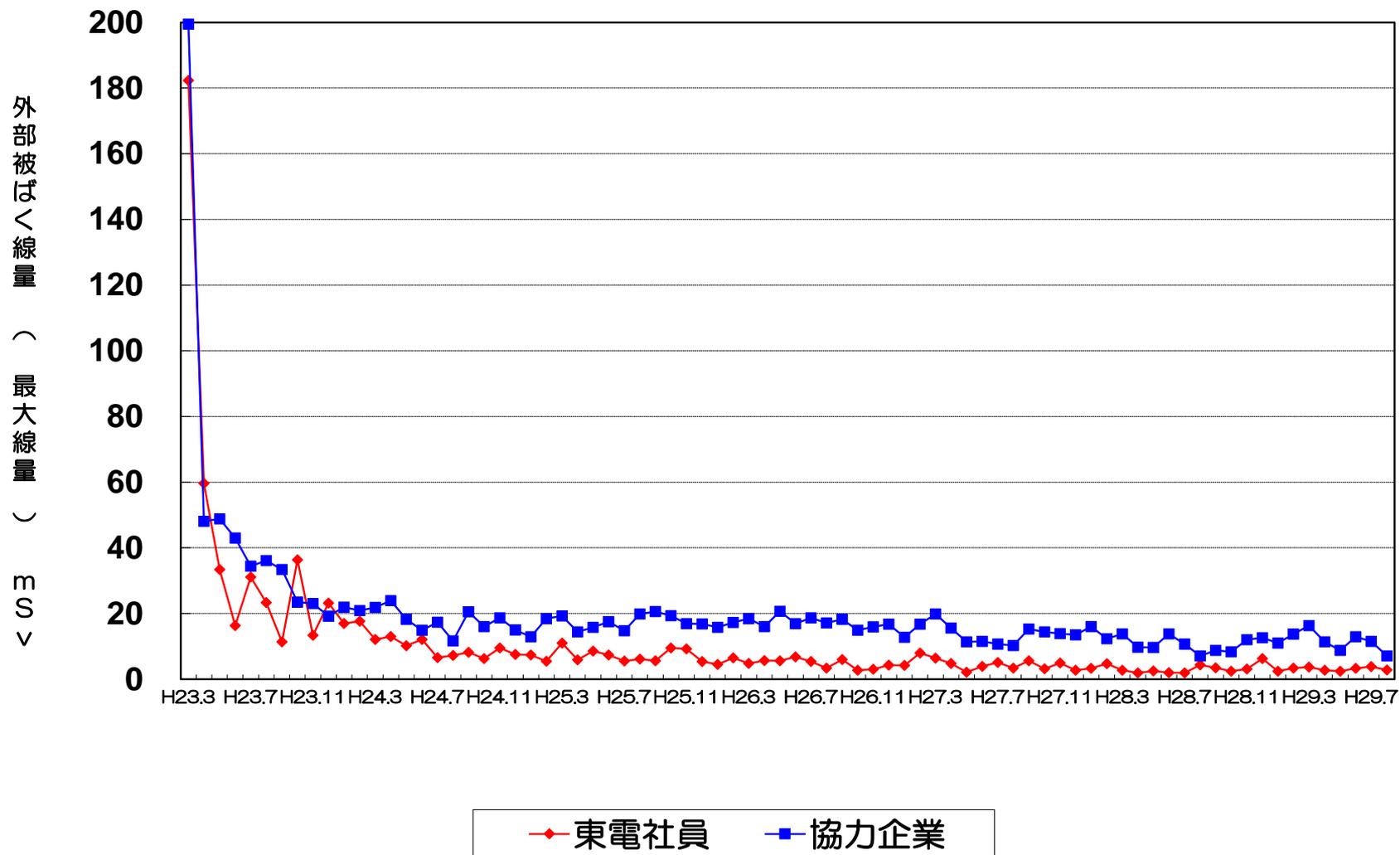
2017年10月12日

東京電力ホールディングス株式会社

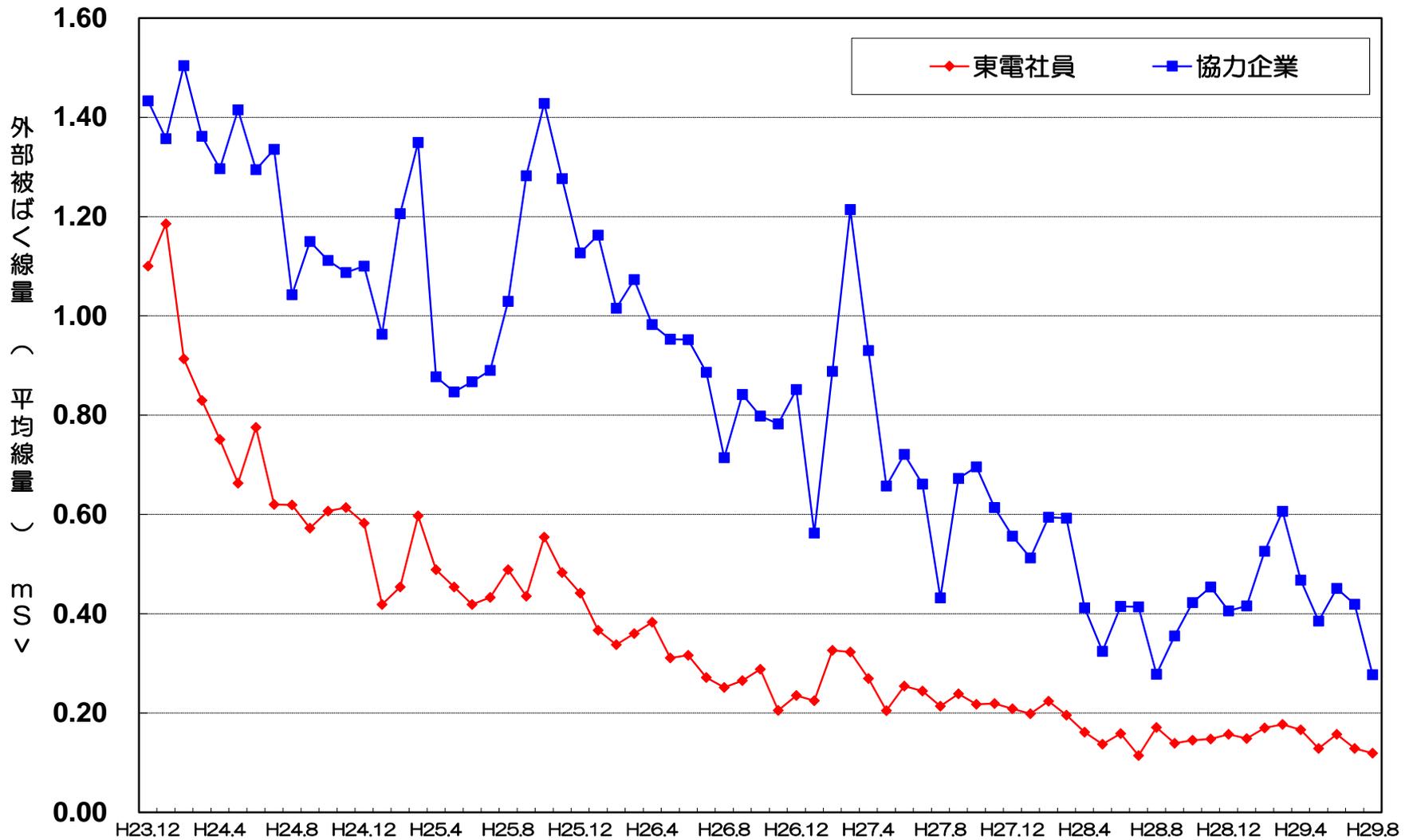
1. 発災以降の月別被ばく線量の低減状況(月平均線量)



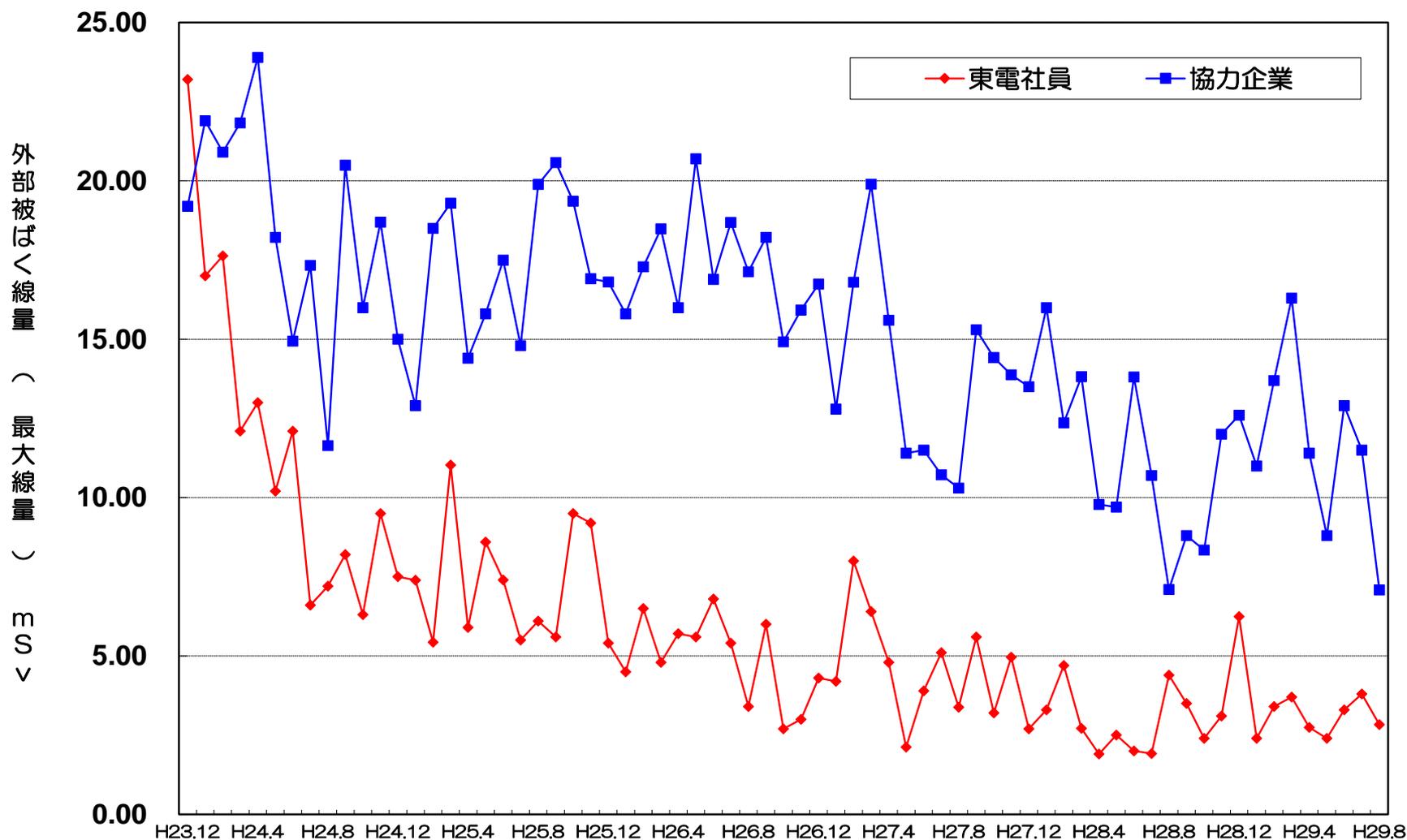
2. 発災以降の月別被ばく線量の低減状況(月最大線量)



3. ステップⅡ以降の線量推移(月平均線量)



4. ステップⅡ以降の線量推移(月最大線量)



5. 現在の状況

(放射線業務従事者の累積被ばく線量 H28年度分)

区分(mSv)	H28.4～H29.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	216	216
10超え～20以下	22	1,139	1,161
5超え～10以下	90	1,393	1,483
1超え～5以下	404	4,370	4,774
1以下	1,162	7,059	8,221
計	1,678	14,177	15,855
最大(mSv)	14.75	38.83	38.83
平均(mSv)	1.27	3.09	2.90

○H28年度（4月～3月）に作業実績のある
15,855名のうち

- 15,855名（100%）は50mSv以下
- 15,639名（98.6%）は20mSv以下
- 12,995名（82.0%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

6. 現在の状況

(放射線業務従事者の累積被ばく線量 H29年度分)

区分(mSv)	H29.4～H29.8月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	19	19
10超え～20以下	0	307	307
5超え～10以下	14	664	678
1超え～5以下	197	2,227	2,424
1以下	1,139	7,221	8,360
計	1,350	10,438	11,788
最大(mSv)	6.84	28.80	28.80
平均(mSv)	0.53	1.55	1.43

○H29年度（4月～8月）に作業実績のある
11,788名のうち

- 11,788名（100%）は50mSv以下
- 11,769名（99.8%）は20mSv以下
- 10,784名（91.5%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

7. まとめ

- 構内の環境改善（作業工法含む）により、環境線量率が低下している（H28.6の本部会にて説明済み）。それに付随して従事者の線量状況も改善してきている。
- 引き続き作業環境の線量低減に取り組むと共に、作業者の方に継続的に従事していただけるよう、被ばく状況について今後も継続して注視していきたい。